

令和元年度第1回守口市まち・ひと・しごと創生委員会

○議 事 日 程

令和元年7月3日（水）午前10時開会

○出 席 委 員 （14名）

委員 長	眞 鍋	昇	委員
副委員 長	山 口	行 一	委員
	鶴 坂	貴 恵	委員
	大 森	康 二	委員
	藤 田	智 子	委員
	山 田	和 利	委員
	佐 伯	剛 之	委員
	橋 本	恒 己	委員
	小 西	雅 晴	委員
	嶺 山	扇 花	委員
	工 藤	順 子	委員
	川 上	博 文	委員
	吉 岡	典 昭	委員
	宮 本	欽 司	委員

○事務局

企 画 財 政 部 長	工 藤 恵 司
企画財政部都市経営戦略監	瀬 戸 隆 之
企画財政部次長兼企画課長	尾 崎 剛
企 画 課 長 代 理	仲 嶋 浩 平
企 画 課 主 任	吉 本 博 樹
企 画 課 主 査	西 田 恵 里 子

~~~~~

◇ 午前10時00分 開会

○委員長 おはようございます。

定刻となりましたので、令和元年度第1回守口市まち・ひと・しごと創生委員会を開催させていただきます。

委員の皆様方におかれましては、何かと御多用中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

議事に入ります前に、皆様にお願ひがあります。本委員会は、会議録作成の都合上、録音をさせていただいており、議事録作成のために、御発言の前には挙手の上、私から指名させていただいてから御発言いただくようお願いいたします。

では、事務局から、本日の出席委員の数を報告いたします。

○事務局 御報告申し上げます。本日の出席委員は、定数15名中14名でございます。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま事務局から御報告いただきましたように、委員会条例第5条第2項の規定に基づいて、15名中の14名で定足数に達しておりますので、会議は成立いたします。

それでは次第に沿って、進めてまいりたいと思います。

今年度、初めての委員会であり、委員の一部に異動もありますから、改めて事務局から御紹介をさせていただきます。大変恐縮ですが、お名前が呼ばれましたら御起立いただき、御一礼を賜ればと存じます。

なお、委員の御紹介の後、事務局の御紹介についても、合わせてよろしくお願ひしたいと思います。

○事務局 それでは、令和元年度守口市まち・ひと・しごと創生委員会の委員を御紹介させていただきたいと存じます。お手元の「守口市まち・ひと・しごと創生委員会委員名簿」の順に、御紹介させていただきます。

1号委員、大阪国際大学学長補佐で委員長の真鍋委員です。

○委員長　　よろしくお願いいたします。

○事務局　　同じく1号委員、大阪工業大学工学部都市デザイン工学科准教授で、副委員長の山口委員です。

○副委員長　　はい、よろしくお願いいたします。

○事務局　　同じく1号委員、摂南大学経営学部経営情報学科長の鶴坂委員です。

○委員　　よろしくお願いいたします。

○事務局　　次に、2号委員、パナソニック株式会社総務部企画助成課長の  
大森委員です。

○委員　　よろしくお願いいたします。

○事務局　　同じく2号委員、京阪ホールディングス株式会社経営統括室事業推進担当課長の藤田委員です。

○委員　　よろしくお願いいたします。

○事務局　　同じく2号委員、守口門真商工会議所直前会長の山田委員です。

○委員　　よろしくお願いします。

次に、3号委員、株式会社りそな銀行守口支店長の佐伯委員です。

○委員　　よろしくお願いいたします。

○事務局　　佐伯委員は、林委員の御後任として、今年度から委員に御就任をいただきました。よろしくお願いいたします。

同じく3号委員、株式会社日本政策金融公庫守口支店長兼事業統括の橋本委員です。

○委員　　よろしくお願いいたします。広島から3月に参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局　　橋本委員は、谷本委員の御後任として、今年度から委員に御就任をいただきました。よろしくお願いいたします。

同じく3号委員、枚方信用金庫地方創生推進部執行役員部長の小西委員です。

○委員　　よろしくお願いします。

○事務局 次に、4号委員として、市民のお立場から御意見を賜ります、嶺山委員です。

○委員 よろしくお願ひします。

○事務局 同じく4号委員の工藤委員です。

○委員 よろしくお願ひします。

○事務局 それからもう一方、4号委員の井後委員は本日御都合により、御欠席をされておられます。

次に、5号委員、門真公共職業安定所長の川上委員です。

○委員 川上でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局 同じく5号委員、株式会社FMもりぐち局長の吉岡委員です。

○委員 FMもりぐちの吉岡です。よろしくお願ひいたします。

○事務局 同じく5号委員、守口郵便局局長の宮本委員です。

○委員 宮本でございます。よろしくお願ひいたします。

○事務局 以上で、委員の皆様の御紹介を終わります。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

企画財政部長の工藤でございます。

○事務局 工藤でございます。よろしくお願ひいたします。

○事務局 企画財政部都市経営戦略監の瀬戸でございます。

○事務局 瀬戸です。よろしくお願ひいたします。

○事務局 企画財政部次長兼企画課長の尾崎でございます。

○事務局 尾崎です。よろしくお願ひします。

○事務局 企画課長代理の仲嶋でございます。

○事務局 仲嶋でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局 企画課主査の西田でございます。

○事務局 西田でございます。よろしくお願ひいたします。

○事務局 私は、企画課主任の吉本です。

以上で、事務局職員の御紹介を終わります。

○委員長 どうもありがとうございました。委員の皆様、何とぞよろしく

お願いします。

それでは早速ですが、案件（２）守口市の転出入アンケートの実施状況について説明をいただきたいと思います。事務局からお願いいたします。

○事務局　それでは、案件（２）の①守口市の転出入アンケートの実施状況についてを御説明させていただきます前に、配付資料の御確認をさせていただきます。

お手元の資料でございますが、上から「座席表」、「守口市まち・ひと・しごと創生委員会委員名簿」、「次第」、「資料１ 守口市の転出入アンケートの実施状況について」、「資料２ 令和元年度の守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の重点取組について」、「資料３ 平成３０年度守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置づける取組一覧」、「資料４ 守口市における社会動態、自然動態及び合計特殊出生率について」「守口市における人口推計及び高齢化率の分析について」「守口市における転出入者の分析について」、「資料５ 令和元年度の守口市まち・ひと・しごと創生委員会の進め方について」、「資料６ 学校法人関西大学とのシティプロモーション、ブランディングに関する共同研究の中間発表会の概要について」、そして最後は「守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略」でございます。

以上、お手元でございますでしょうか。

それでは説明に入ります。お手元の「資料１ 守口市の転出入アンケートの実施状況について」を御参照賜りますよう、お願いします。

まず、転出入アンケートを実施することとなった経緯について、簡単に御説明申し上げます。このアンケートは、平成３０年度第１回創生委員会において、委員からの御提案を受けて、守口市に転入して来られる方や守口市から転出される方に対しまして、どのような理由で守口市に転入、または転出されるのかについて把握し、今後のまちづくりに向けた施策に生かすことを目的といたしまして、平成３０年９月から実施しているものです。

なお、アンケートは、市民の方々が転出入の手続を行う庁舎２階の総合窓口課の書類記載台に設置しており、手続中の待ち時間において、アンケート

用紙を記入し、投函いただくこととしております。

アンケートの回収数は、令和元年6月7日時点で、29件と非常に少ないため、あくまで参考としての集計結果の報告であるということを御了承いただければと考えております。

それでは、御説明をさせていただきます。まず、転入に関するアンケートについては23件の回答があり、(1) 転入する最も大きなきっかけとしては、家族・親族からの独立や結婚及び就職・転職によるものが比較的多く回答がございました。

次に、(2) 守口市に転入した決め手としては、住宅の規模や価格などの住宅事情の条件が良いことや、親や子ども、友人や知人の家に近い、電車やバス、道路など交通の利便性が高いことなどに、比較的回答が多く集まりました。

次に、(4) 守口市に対するイメージについては、一番右側の欄に、「良い・どちらかといえば良いの割合」を記載しておりますが、全ての年代で、本市に対して比較的良いイメージを持っておられる傾向が読み取れたところでは、

次に、(3) 守口市の取組については、健康・子育ての分野において、充実・やや充実の割合が、比較的高い傾向が読み取れたところです。

次に、転出に関するアンケート調査ですが、こちらは6件と非常に回答件数が少なかったため、回答傾向のみをお示しさせていただきます。

集計の結果、転出されるものの約8割の方が本市に対して「良い・どちらかといえば良い」のイメージを持たれていることが読み取れたところです。

なお、アンケートの回収枚数は、先ほども申し上げましたように、非常に少ないのが現状でございます。よって、アンケートの回収枚数がふえるように、総合窓口課での働きかけ等について、調整しているところです。今後も市民の方々の声を把握することができるよう取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

以上で、「守口市の転出入アンケートの実施状況について」に関する説明

を終わります。

○委員長　　どうもありがとうございます。委員の方々から、このアンケートの件につきまして、御質問あるいは御意見、コメントがございましたらどうぞ。

○委員　　このアンケートですが、率直に申し上げて少な過ぎる。先ほど説明の中に自主的というふうなお話がありましたが、他市でアンケートをされてる場合、職員の方は恐らく転出入の手續に来られる、要は市民の方が待合の場所で具体的に対面でお話ししながら、アンケートの協力を要請されるということをされています。例えば期間は限定でいいと思うんです。やはり転出入が多い時期というのがあると思うので、そういう時期に実施しないと、「記帳台に置いてありますよ、やってくださいね」というのは、やはりなかなか皆さん、とっつきにくいでしょうし、面倒がられると思うので、守口市の転出入に関するアンケートは特に少ないですよ。要はその転入を増やしたいのか、転出を抑えたいのか。基本は両方やと思いますけども、やはり転出される方が、どういう理由で転出されるかというのは、例えば行政サイドからすれば、少しサービスの不足している部分を見つけるという意味では、大事なのかなと思います。期間を長くやる必要はないと思うのですが、やはりもう少し丁寧に説明して、要は御協力を求めるという、声かけが一番大事なような気がしますので、結局自分で進んでされる方というのは、どちらかと言えばいいイメージの方しか出てこない。本来苦言を呈される方というのは、あまりそういうところでは携わっていただけないような傾向があると思うので、少し工夫されたほうが、行政として、状況を把握するにはよろしいんではなかろうかと思しますので、できたらお願いしたいなと思います。

○事務局　　貴重な御意見、ありがとうございました。

本市としても、極めて少ない回答数に反省しておるところでございます。

今後、総合基本計画の策定もございますので、やり方をいろいろ検討してまいりたいと考えております。しかし、本市の場合、窓口業務を民間委託しておりますので、年度途中で仕様の変更等を行い、窓口でアンケートを実施

してもらうのは、課題もございます。今後、詳細な話を詰めさせていただき、できる限り多く御回答いただけるように努力してまいります。

○委員　　お願いします。

○委員長　　他にございませんか。

○委員　　このアンケートですが、確かにアンケートのお答えいただいた方、人数が少ないというのは、否めませんが、アンケートの回答数が少なかったから反省、多くとるように、というよりも、少数意見とはいいいながら、この意見をどう生かすかというところが重要になってくるかと思えます。そういう意味では、先ほどのアンケートの結果の御説明の中で、この少数意見の中でも、特にネガティブな意見に対して、これをどう改善していくのかといったところの取組がなされているのかどうか。その辺の御説明がなかったので、お聞きしたいなと思えます。

○事務局　　貴重な御意見、ありがとうございます。

9月からアンケートを実施させていただき、先ほどからもありますように非常に少ないということと、いったいどういった御意見が出てくるかを見ていたという状況でして、まだアンケートの結果の分析といいますか、これをどう把握、今後反映させていくかということについて、私どものほうでまだ検討段階でございます。ただ先ほど事務局からも申し上げましたとおり、今後このアンケートにつきましては、枚数を増やしていくことと同時に、アンケートの内容等の見直しも含めまして、今後、令和3年度からの新しい総合基本計画に移るということもあり、その資料としても活用したいと考えておりますので、次の計画をつくるという中におきましては、あるいはまち・ひと・しごとの次の段階に移る中におきましても、そういったアンケート結果を十分反映できるようにさせていただきたいと考えているところでございます。よろしく願いいたします。

○委員長　　実際に守口市にお住まいの市民代表の委員からもご意見をいただきたいのですが、アンケート結果についてどのようにお感じになりましたか。



○委員 私ももともとは摂津に住んでおり、こちらでマンションを購入したので、引っ越してきたんですが、私の個人的な意見としては、そこまで考えて引っ越ししてきたわけではないので、こういうアンケートを渡されると、ちょっと。

○委員長 例えば、そのアンケートは置いておき、実際ここに住まわれる、移られたきっかけはいかがですか。

○委員 イオンの近くに引っ越してきたので、買い物が便利ですか駅近くですか、そういうのはやはり魅力的でした。摂津がかなり不便だったので。

○委員長 いかがですか。

○委員 私は、守口市で生まれて、ずっと住んでいますが、私も今大学4年生で就職活動中で、大都市に近い、守口市のようなベッドタウンみたいなところの住居というのは就活生などにとって、結構探すポイントだと思うので、そういったところをもっと若い人にもアピールできたらいいなと思います。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 私は4月に守口市に来ましたので、守口市のことは余り知らなくて、来てみたら非常に交通の便もよくて、良いまちだなと感じました。もともと関西出身なんですが、守口市のほうは余り来たことがないです。直近は東京に13年住んでましたので、東京と大阪の違いなんかも肌で感じるんですが、私個人的に、今練馬区に家を持っていまして、なぜ練馬を選んだのかを回答するとしたら、結婚して子どももいるという前提でいくと、一番目は住宅の規模や価格、それからまち並みやまちの雰囲気がいいというところ、それから交通の便がいいというところに多分丸をつけるだろうと思います。

私は単身赴任で今、江坂に住んでいるんですが、単身赴任という観点からすると、やはりこの電車やバスと、商業施設が充実しているという、ここを多分選ぶと思います。なので年代ももちろんそうですが、どういう立場で住んでるのかということによって、恐らく丸をつけるところは変わっていくの

ではないかなと思います。その辺りも、単なる年齢だけではなく、単身で来ているのかとか、家族構成とか、ここら辺も踏まえてアンケートをとらないといけないのかなと思います。

○委員長　ありがとうございます。

他にございませんか。お手元の平成28年3月に守口市のまち・ひと・しごと創生総合戦略で、大がかりなアンケートをとって、そのときに、どういう魅力があったのか、今後できれば、先ほどから委員の先生方から御指摘があったような、件数を増やして、平成28年度の結果と比較して、どこが良くなったかとか、よくなったつもりが実はアンケート見ると、あまり良くなっていなかったとか、その辺りもまた事務局で御検討いただけたらと思います。

またその報告をお願いします。

それでは次に、案件の(2)令和元年度の守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の重点取組について事務局から御説明いただきたいと思います。

○事務局　それでは、案件(2)の②令和元年度の守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の重点取組についてを御説明させていただきます。恐れ入りますが、お手元の資料2で、一番上が「子育て世代包括支援センター設置事業」と書いている資料を、ご覧いただきたいと思います。

こちらは、令和元年度に、本市の主要な施策のうち、本戦略に掲げる取組について、御説明させていただくものです。

それでは、1ページ目、子育て世代包括支援センター設置事業に関する資料をご覧ください。こちらは、本戦略20ページと21ページに記載の「若い世代の妊娠・出産を支援する」及び「若い世代の子育てを支援する」に該当する取組として、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を目的として、子育て世代包括支援センターを、つい先日令和元年7月1日に、守口市役所3階北エリアに設置をしたところでございます。

次のページ、さくら小学校新築工事に関する資料をご覧ください。こちらは、本戦略22ページに記載の「魅力ある学校教育を提供する」に該当する

取組として、平成30年4月に、旧橋波小学校を仮校舎として開校したさくら小学校について、令和3年4月の新校舎供用開始を目指し、旧三郷小学校用地において、子どもたちや地域に親しまれる学校となるよう、新校舎新築工事を実施するものでございます。

また次のページ、土曜学習事業に関する資料をご覧ください。こちらについても先ほどと同様、「魅力ある学校教育を提供する」に該当する取組として、教育関連企業のノウハウ・コンテンツ・人材を活用し、児童に対し土曜日における学習機会を提供し、基礎・基本的な学力と、家庭での学習習慣の定着を図ることで、学力向上につなげる取組として、市立小学校及び義務教育学校前期課程の5・6年生を対象に、民間活力を活用した土曜日学習を隔週1回、市内全校で実施するものでございます。

次のページ、ファミリーサポート協力会員普及事業に関する資料をご覧ください。こちらは、本戦略25ページに記載の「安心して子どもを預けることができる保育サービスを提供する」に該当する取組として、ファミリーサポート事業は、育児の援助を行いたい協力会員と、援助を受けたい依頼会員からなる会員組織として市が事業を立ち上げ、地域において、会員同士が育児に関する相互援助活動を行うことを支援するもので、ファミリーサポート協力会員の増加を図るため、従来、協力会員から不慮の事故等の際の補償をカバーする保険料の一部負担金として徴収していた年1回300円を無償化するものでございます。

また、次のページ、病児保育事業（病児対応型）に関する資料をご覧ください。こちらについても先ほどと同様、「安心して子どもを預けることができる保育サービスを提供する」に該当する取組として、保護者が就労している場合等に切実なニーズである保育の場確保に向けて、子どもが病気の際、保育士・看護師等が保護者に代わって保育を行う病児保育事業のうち、病児対応型を新たに実施する事業者2カ所に対して支援を行い、保護者が安心して子育てができる環境充実に図ることを目的に、運営補助及び施設整備補助を行うものでございます。

次のページ、土居公園再整備事業に関する資料をご覧ください。こちらは、本戦略30ページに記載の「子育て親子が安心・快適に出かけられるまちづくりを推進する」に該当する取組として、平成30年6月に発生した大阪北部を震源とする地震で、老朽木造住宅の被災が目立ったため、同公園に隣接する府有地である旧大阪府守口保健所跡地を取得し、一体的な公園として再整備することによって、土居公園を一時避難場所として活用し、防災機能を付加するとともに、当該公園に隣接する商店街を含めたまちの活性化や高齢者、子育て世代等の市民の憩いの場として、活用しようとするものでございます。

以上で案件(2)の②「令和元年度の守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の重点取組について」の説明を終わります。

○委員長 どうもありがとうございます。

この件につきましても、委員の先生方のお考え、御質問も含めまして、御意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。

以前にこの委員会で、守口市は子育て世代に対してサポートを結構やってるんですが、それが住民の方とか、あるいはその周りのここに来たいと考えてる人たちに伝わってないというような意見がありましたが、今回その子育て世代に対する支援、病児・病気のお子さんに対する支援が他と比べ充実しているのでしょうか。

○事務局 子育て世代包括支援センターの設置については、平成30年の末に、国の総合戦略に記載された事業で、この子育て世代の切れ目のない支援を図っていくことを目的としています。そのような意味では、国の総合戦略が示された直後に実施したという意味では、先進的ではなかろうかと考えておりますし、また平成29年度から実施をさせていただいてる保育所、認定こども園の無償化についても、国に先駆けて実施をさせていただいてるところで、子育て世代に対する取組支援といたしますのは、少なくとも府内では先進的であるという認識ではあります。

○委員長 以前、この委員会で、御指摘があったんですが、非常に優れて

いるのはよくわかる。それがなかなか広報というか、伝わりにくいのではないか。それからやはり子育て世代の人たちというのは、もう我々の世代と違って、情報を得る場所が違ってくる。例えばパンフレットをつくって配ったから読むかといえそうでもない。そういったあたりの広報の対応を工夫したら、守口市にやっつけてこようという若い世代が増えるのではないかとというような御指摘があったのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○事務局　広報については、基本的に市の媒体は、広報誌と、ホームページになります。例えば、資料3の1-3-1というところで、「若い世代の子育てを支援する」という項目で、市で子育てに関するページがホームページの中にあるんですが、そのアクセス数が、平成26年度には1万400件だったものが、平成30年度の実績で申し上げますと、2万4,978件ということになっており、恐らくこのページを見る方は、子育て世代かなと予測できますので、そういう意味では見ていただいているかなと思っておりますが、ただこの2万5,000件弱が、相対的に多いのかどうかという分析まではまだできておりません。それから、後ほど少しお話をさせていただきます、関西大学との共同研究の中で、私、中間発表会に行かせていただいたのですが、守口市の子育て支援について、こちらは大学の先生方、あるいは学生さんの研究の中でも、一定先進をいっておるものの、広報の打ち出し方が少し足りないのではないかとということに議論が終始したので、そちらの御意見等もまた踏まえながら、今後できることを考えていければと思っております。

○委員長　どうぞよろしく申し上げます。

○委員　他市のこういった総合戦略会議にも参加しておりますが、守口市の子育て施策は充実しているので、その市では守口市への子育て世代の転出がやはり出ております。一般的にやはり守口市は、そこは注目されていると認識しています。

それと合わせまして、年間の出生率を上げるという意図があって、子育て世代の流入促進を図られてると思うんですが、資料4の世代別の平成25年

と30年の人口の増減では、逆に0歳から10歳児ぐらいまでが変わらずマイナスであるということは、子育て支援施策による流入の反面、そこで生まれ育った若い世代が、逆に流出しているのが現状に感じます。せっかく良い施策をされ、この新庁舎も含め注目度は高いのに、どこかそれが成果として反映されていないと思うのですが、そこはどうお考えですか。

○事務局 実はちょっと先取りで申し訳ございませんが、この資料4の守口市における転入出者の分析によりますと、あくまで参考値として作成した平成25年と30年度の比較というところでは、いわゆる小さいお子様がおられるファミリー層の流出というのは、平成22年から27年のこの比較と比べますと、若干抑え気味ではあるかなというふうに考えておりますが、例えば保育の無償化であればですね、平成29年度からスタートさせていただいておりますので、まだこの5歳階級別人口増減表に一定反映し切れていない部分があるのかなというふうに考えております。

それで例えば、この資料4の1ページ目の社会動態といたしますのは、転入者と転出者の差を見ていくものですが、これにより、平成28年から増加に転じて、平成30年においては320人の増ということで、社会増を達成している自治体といたしますのが、平成29年度の比較で申し上げますと、北河内でいえば本市と交野市の2市のみであり、今まで出ていくほうが多かった枚方市や寝屋川市からも転入をしてきておるといような状況が垣間見られますので、そういう意味ではどこまでを成果ととるかというのも非常に難しい部分もありますが、一定の成果は少しずつ出てきていると思っております。

ですので、先ほど委員長からも御指摘いただいたPRと、当然子育て世代に非常に予算を投じてきておりますので、子育て世代に来ていただけるように、さらにPRし、よりその結果に結びつけていくということは、これは当然あるのではないかなと考えております。

○委員長 どうもありがとうございました。ほかにございませんか。

○委員 総合戦略は、28年の3月にこのようにつくられていて、拝見しますと人口減少の抑止だとか、まちづくりのビジョンの中で、総合的な施策

が講じられているようにお見受けしたのですが、資料2にある令和元年の重点施策を理解するため、今年度の実施に至ったその理由やいきさつ、プライオリティが高かったのか等、重点化し取り上げたそもそもの基本的な考え方について簡単にご説明をお願いしたいと思います。

○事務局 令和元年度の予算につきましては、引き続き子育て世代の支援に全力を尽くしていく、また、昨年経験しました災害への対応という2つの柱で、予算編成の重点を置かせていただきました。それらのことから、資料2にあります子育て世代包括支援センターをはじめ、就学前のみならず小学校に入られてからも定住していただきたいとの思いから、学校の新校舎の建設、またこれまで一番保育のセーフティネットと言われます病児保育につきまして、これまで本市におきましては未実施でございましたので、そこらあたり民間事業者の協力も得ながら、実施に踏み切らせていただいています。

○委員 とすると、いわゆる人口の減少の抑止についての対策のプライオリティとしては、満遍なく世代がありますが、そのいわゆる子育て世代の人たちに来ていただきたい。もしくは出ていかないでいただきたいと、こういうことを守口市さんとしては優先的に考えていると、そういう基本的な線でもよろしいのでしょうか。

○事務局 はい。これまでの人口推移を見てもみますと、やはり、例えばお子さんの小さいときには、守口にお住まいになられて、小学校に入る前に引っ越されるというようなケースや、マイホームを購入されるタイミングで守口から出ていかれるといった年代の転出増が非常に課題でございますので、委員のおっしゃるとおり、そのあたりに重きを置いて、施策展開を実施してるところでございます。

○委員 ネガティブなことを言うようで申しわけないんですが、私ども北河内の各市町村とお付き合いがあるんですが、子育て世代の転入はどの自治体でも考えていますので、じゃあ本当に子育て世代はどういう価値観で住むところを選んでいるのかとか、そういうそもそもの分析をされたのかなというのが一点疑問であるのと、私はたまたま守口市とのお付き合いがあって、子

育てに非常に力を入れていることを存じ上げていますが、ある意味どこも力を入れていて、何が違うのかというところが全くわからない。例えば、「世代包括支援センターでこういったことをします」と書いていますが、他市でも似たようなことはいっぱいして、例えば、寝屋川市はものすごく立派な施設があったりして、「いや、うちは、ここがすごいんです」というような、その尖っている部分を伝えないと、全然わからないと思います。漢字などの羅列で、結局アピールポイントが全然伝わってこないのも、何かそういうもっと打ち出しをしないと、本当はすごいことやっておられても、他市とあまり変わらない。

やはり大阪市などは、結構ダイナミックなことを最近やってきているから、隣接する市町村として、限られたパイの取り合いみたいなのところがあるので、何かそういう競争的な戦略のようなことを考えていかないと、せつかく税金を投入してやってるのに、その効果が上がらないのではと思います。

しかもその320人の社会増は単純にマンションが建ったことによる誤差の範囲なのではと思ってしまうわけです。交野市の増加も住宅開発によるものではないかと。なので、ふわっとせず、もっと焦点を絞って分析するなり、ピンポイントでもっとアピールするなり、メリハリのつけたプロモーションというか事業のやり方をしないと、せつかくの税金がもったいないのではという気がしました。以上です。

○委員長　　どうもありがとうございました。

他に御意見いかがですか。

それではこういった考え方もあろうかということで、ぜひ頑張ってください。

○委員　　自分の娘が、そろそろ結婚してどこかに住むとなったときに、彼女たちはどういうプライオリティで、住む場所を選ぶのかなと思ったときに、ここまで情報探索するのかなというところもあり、実際に子育て世代の行動のパターンとか価値観とか、そういうものをもう少し研究されたほうがいいのかという気がしました。



○委員長　それでは引き続きまして、平成30年度の取組の実績報告について、御説明いただきたいと思ます。

○事務局　それでは、お手元の資料3「平成30年度守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置づける取組一覧」を御参照賜りたいと存じます。

こちらは、本戦略において、各取組の指標としてKPI、重要業績評価指標を設定して、取組を進めているところでございます。この資料は、そのKPIについて、平成30年度の各取組を列挙し、一覧としてまとめたものでございます。

KPIについては、全部で70項目でございます。このうち、令和元年において、KPIを既に達成又は、大幅に上回っている取組については、28項目となります。また、令和元年において、KPIには届かないものの取組が進められており、初期値より成果が上がっているものは、27項目となっております。残り15項目については、初期値と同様の状況、もしくは初期値を下回る状況となっている取組でございます。

初期値と同様の状況、もしくは初期値を下回る状況となっている15項目に関する説明をさせていただきます。

1ページの1-2-1両親教室の受講率及び1-2-3妊婦歯科健康診査の受診率については、昨年度の台風の到来により中止した影響があり、受診率が下がったものでございます。

次のページにまいりまして、1-3-2地域子育て支援拠点事業及びママカフェなどの交流機会の利用者数については、子育て及び子育て支援に関する講習会等の参加者数及びママのためのハッピー講座の利用者数が、初期値を下回る状況ですが、待機児童解消のために認定こども園の整備を行ったことにより、入所児童が増員したことから、在宅での子育てを対象としたこれら講習会等の参加人数が減少したことによるものでございます。

次のページにまいりまして、1-4-5全国学力・学習状況調査の学力調査の平均正答率については、小学校・中学校の国語・算数または数学において、大阪府の平均正答率を下回っておりますが、平成30年度から令和3年

2月までの間、学力向上に係る目標値を設定し、平成30年3月に守口市学  
力向上プランを策定し、取組を進めているところです。

次に、1-4-6 英語教育支援員の活用時数、英語指導助手の活用時数に  
ついては、英語教育支援員の活用時数が初期値を下回る状況ですが、英語教  
育支援員については、小学校において英語が必修化したことにより、活用時  
数が減になったものです。

次のページにまいりまして、1-5-5 病児・病後児保育を行う認定こど  
も園、または保育所の箇所数については、KPIの初期値と同じく、2カ所  
となっておりますが、令和元年度当初に、さらに1カ所増設されたというこ  
とになってございます。

次のページにまいりまして、2-1-1 不燃領域率の達成率ですが、不燃  
領域率とは、公園や道路、コンクリートの建築物といった延焼を抑える場所  
が、地域内にどれだけあるかを元に算出した街の燃えにくさを示す指標でご  
ざいます。計算上では、延焼を一定程度抑えるには、40%以上、ほとんど  
抑え込むには70%以上が必要とされておりますが、大日・八雲地区におい  
ては初期値を下回っております。これは不燃領域率の算出に当たりまして、  
大日地区を通る府道2号線を除算して算定することとしたために、初期値が  
下回ったものでございます。

次に、5ページにまいりまして、2-3-4 町会等による公園美化の活動  
団体数についても初期値より微減する状況です。

次に、3-1-1 市内に立地している中小企業に対して、事業拡大等を支  
援するため実施した国・府による関連支援制度の説明会等の開催回数につい  
ても、初期値を下回る状況です。

次に、3-1-4 人材育成のための講座や研修を実施した商店街等を支援  
した件数についても、制度の周知は図っているものの、初期値と同様の状況  
となっております。

次のページにまいりまして、3-2-2 新たな雇用の創出及び市内商店街  
の活性化を図るため、空き店舗の活用を支援した件数についても、周知に努

められているものの、参加表明される商店街がないことから0件となっております。

次のページにまいりまして、3-4-1 関係機関が実施する市内立地している中小企業の合同企業就職面接会の開催等の支援数については、初期値と同様となっておりますが、その他、地元企業と就職希望者をマッチングするセミナーを開催しております。

次のページにまいりまして、4-2-1 公募型協働事業提案制度による事業実施数及び広報もりぐちへの地域コミュニティ協議会に関する特集記事の掲載回数について、初期値と同様もしくは下回る状況となっております。

最後のページにまいりまして、4-2-3 本市における民泊の登録数は0件となっておりますが、現在大阪府において民泊の登録に係る事務等を実施しております、8件の登録がございます。また、観光に係る情報については、カラーバーコードを備えた観光ガイドによる情報発信に取り組んでおります。

なお、これらの報告事項につきましては、令和元年6月5日に開催をした本戦略の全庁的な推進体制として設置をしている守口市まち・ひと・しごと創生本部会議において、報告をさせていただいております。

甚だ簡単ではございますが、平成30年度の取組における実績報告について、説明を終わります。

○委員長 どうもありがとうございました。何か御質問、御意見はございますか。

○委員 非常に多岐にわたって、どこにポイントを当てるかが難しいですね。僕は商工会議所の青年部に所属しておりますが、なかなかどの企業でも人手が足りないというのはよく聞くんですが、マッチングの問題が一番だと思います。先日も、補助金であるとか、先生に来ていただいて講義を受けましたが、転職を繰り返す方を雇用した場合にも補助金は出るのですが、非常に安かったり、もちろん国の施策の問題なので、なかなか難しい部分ではありますが、その辺りに補助金や支援が向かえば、もうちょっとマッチングし

たりとか、どうしても小さい会社というのは1人雇うのも結構リスクがあって、雇ってしまうとなかなかやめさせられないというところがあるので、もう少し人に対する支援というか、補助金等々が出れば、やりやすいかなと思います。景気がいいと言いながら、なかなか実感できないのが実情かなというのを感じているところです。

○委員 先ほどのアンケートのときも述べましたが、その結果を踏まえて、これから何をどうするのかといったところが大切で、我々もそれを知りたい所です。要はこれだけの戦略・施策をとって、守口市としての強みは何であるか、弱みは何であるか、その弱みをどうしていくのかといったところを、これだけ多岐にわたってる内容なので、一言では答えられないまでも、要約したものを知りたいと思います。

○委員 確かに色々な取組されていて、KPIも設定されているわけですが、これを達成したから最終的にはもっと数値が増えたりするのでしょうか、この項目をしたから、結果的にこれにつながったというのが、最終的に特定できるものになっているのですか。最終的にこう判断できるようなものになっているのでしょうか。

○委員長 なかなか難しい質問かと。いかがでしょう。

○事務局 具体的な回答は正直ございませんが、大きく言えば、一つ一つのこの業績意図を設けておりますので、それを達成していくことで、この総合戦略のあるべき姿と言いますか、守口市としてあるべき姿に近づいていくということは、大きな考えとしてはございます。その中で、どれとどれが、もちろん個別の施策それぞれはリンクしていくので、それはあるわけではありますけれども、明確にそこをお答えできるということではないのかなというふうに思います。

○委員 マッチングの話が出ております。世の中で好景気と言われる発端は、有効求人倍率ということで、その発表が判断の基準にはなっているのですが、要は求職者、仕事をお探しの方が減ってて、求人が増えているということで、倍率はどんどん上がっていく感じになってはいますが、最終的に人

人手不足という声が、商工会議所さんから出ましたけど、もうまさしく企業の方とお話しさせていただいてると、人を雇うことのリスクもやはりそれなりに経費がかかるので、雇うところも悩んでおられるように聞いております。人手不足を解消するには、国は基本的に今までは、常用で、長く働いていただく方、形態がほとんどだったのですが、それをできるだけスポットでも、女性それから高齢者、障害者の方でも働きやすい形を整えていくということで、いわゆる、働き方改革というものが進められておりますが、ハローワークとしてもそういう若者氷河期世代の政策であったり、生涯現役の支援であったり、マザーズ層に合わせても、ハローワークの宣伝になってはいますが、3月にキッズスペースを所内に設けまして、お母さん世代の方たちがお仕事探しをしていただけるような対策も整えておりますし、それから守口市とも連携をとりながら、面接会もさせていただいてる経過もありますので、私どもハローワークと自治体とが連携をとれる部分はたくさんありまして、先ほど子育て世代の包括支援センターのお話もありましたが、こちらは多分出産、それから初期の子育てというところが対象になっておりますが、その先のところでまた連携させていただくようなことが可能ならば、私たちもできる限り協力をさせていただきたいと思っておりますし、地域の事業主の方の要望にも応えながらしていきたいと思っておりますので、ぜひいろいろマッチングさせていただくことがありましたら、こういうまち・ひと・しごとの「しごと」の部分であれば、協力させていただけるところがありましたら、ぜひさせていただければと、お願いも含めて申し上げます。

○委員長　　どうもありがとうございます。

○委員　　ピンポイントで申し訳ないです。2-1-3のところ、空き家の数が出ていますが、平成30年度の実績値が1,570であり、その初期値が1万1,610と、桁が全然違うのですが、空き家でも集合住宅の空き室を入れる換算と、そうでない場合もあると思っておりますが、1,570とはどのような調査値になるのですか。

○事務局　　委員のおっしゃるとおり、現在の空き家の概念というのが、集

合であっても、いわゆる密集住宅、文化住宅等においても、1軒でも入居されていたら空き家にならないというカウントになります。よって、初期値段階と、空き家の対策の計画を立てた段階でのカウント方法の違いによりそこは違いが出ております。

○委員　ありがとうございます。その空き家対策について、今このエリアでもそうだと思いますが、新たに大きく大規模な住宅が建つエリアであったり、マンションがまた建つというのは、なかなか少なくなってきたので、やはり今既にあるものをうまく流通させて、子育て世代を含めた若い世代に、うちに住んでもらうと。やはり若い世代も、通勤に便利とか、交通に便利とかで、当然住宅の環境価格というのは非常に大事になってくると思うので、やはり空き家を放置せずに、極力流通していただくような施策を我々もお手伝いさせていただいているし、ぜひやっていただきたいなど。そうすればまちの活性化にも当然つながりますし、人の移動にも当然プラスになると考えますので、ぜひよろしくをお願いします。

○事務局　ありがとうございます。

○委員　資料のつくりについて、例えば基本目標というところがあって、1ページは全部同じ内容です。これを1つで括ってもらわないと、どこで変わってるのかを調べるだけでも結構労力がかかります。最後の区分の拡充とか継続とか完了についても、最後まで見ないとどうなるかわからないので、読み込む労力がなくなって、本質的な部分の議論がもう少しできるよう工夫いただければ助かります。

○委員　先ほど来、いろいろ意見が出ております中でおっしゃっておられた、何か1つ目立つものというのが、私も前の会議で申し上げましたが、今度、道路の拡張整備のあたりで、何か大きいことをしていただいて、目立つ守口市にさせていただけたら、本当にありがたいなと思います。

先般、寝屋川市のほうで、道路が広がってきれいになり、私もみましたが、イメージが変わったなというのはあるのですが、まだもう一つ、これがあるからここへ行きたいなっというイメージは、私には感じ取れないので、

守口市の整備の際には、「これはいいね」というような、そういうアピールができれば、ありがたいなと思いますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員 K P I について、総合戦略の策定の際に、K P I を設定しなければいけないことから無理につくっている部分もあるかと思うのですが、今拝見していると、お金さえあれば達成できるものと、達成が難しいだろうなと思うものがあります。例えば防犯カメラの設置台数や、LED化というのは、比較的達成できると思いますが、私、商店街の活性化等をずっとやっていたので、7 ページの例えば3-2-2、空き店舗の活用については、とてもハードルが高いので、なかなかできないだろうなと思ひます。ですので、今度また新しい総合理念などつくられるときには、そういう難易度のようなものも考えないと、数字がひとり歩きするので、その担当課が結局達成できずに怒られたりするのかな、みたいなことを考えたりするので、難易度を合わせてK P I を設定するとか、一工夫が要るのではという印象を持ちました。以上です。

○委員 最初に立てたK P I のP D C Aを回しながら、ここに右の区分に拡充・継続・新規とあるのですが、当初のK P I もやってみたがこれはやっても仕方がないといったような、要するにP D C Aを回す中で、スクラップしたようなものはあるのでしょうか。

○事務局 この70項目のK P I は当初からあり、今委員おっしゃったように、スクラップ、要するに削除したりというような部分というのはございません。計画当初から継続でやっております。

○委員 新規というのは、これはどういう趣旨ですか。

○事務局 こちらは、計画当初、このK P I を立てる際に、市でその施策がすでにあつたのかどうかを示します。つまり、平成28年当時にあつた施策を拡充していく。あるいは継続していく。あるいはこの計画策定時の新規の取組であるかを示しています。

○委員長 委員、いかがですか。

○委員　　今、非常に気になる外国人の方の問題というか、新しく雇用法も変わり、外国人の方が日本で増えていると思うのですが、そういう中の対策など、人口を増やすという意味で、もはや外国人の方の受け入れというものはもう目を瞑れないところだと思います。そういうところに向けた施策というのは、まだちょっと今のところ見えないのかなというふうに感じます。

○委員長　　ありがとうございました。非常にいろいろなところで問題になるということで、私は香川県の出身ですが、やはりものすごく多くの外国人の方が住んでいるらしく、教育などがすごく問題になっていると聞いています。両親が外国人で、同じ社宅のようなところで皆さんそこで生活しているから、日本語に触れることなく小学校に行くということで、いろいろとトラブルが起き始めてるんだという話を聞きました。守口市ももしかするとそういうことが起こるかもしれないですね。その辺りも、先ほどから質問ありましたように、今後考えていく必要があるかもしれませんね。ありがとうございました。

事務局から何か、それについて、御返答ございますか。

○事務局　　比較的守口市は外国人が多いということではなく、今のところは適切に対応できているかなと思いますが、やはり今後もきめ細やかな支援が必要であると認識しております。

○委員長　　ありがとうございました。

○委員　　この資料に対する意見というよりは、市側が、私たち委員をどのように活用したいのかとか、その辺りをもう少し明確にしていけると、もっと議論が深まると思います。

例えば資料3ですと、中間報告ということで、30年度の実績を出されていますが、これを見て、着実に事業進めていますよということを我々に確認してほしいのか、あるいは例えば先ほどから言っている資料にあるKPIについて議論してほしいのか、その辺りが明確になると、もう少しやりやすいかと思います。

後は、全体としては子育てということで、資料2の話になりますが、いろ



いろ取組がある中で、今後は資料2にあるようなことを、さらに力を入れてやっていきますということかと思しますので、その辺りは引き続き結果が出るような形で、取り組んでいただければと思います。

○委員長　　どうもありがとうございました。他にございますか。

なかなかこういう市というのは、いろいろな世代の方がいて、総合的になってしまうのもやむを得ないと思います。この委員会が、一番最初に伺った議題では、やっぱり人口がこのままでは何もしないと減り続けて、やがて消滅していく。そこでそれにブレーキをかけるために、できるだけ頑張りたいというようなことであったかと思えます。

それで、途中御質問がありました。比較的子育て世代とか、人口が増えるかもしれないところに力を入れていく。やはり若い世代の方が住むためには、単に住宅をつくってそこに住むだけではなくて、やっぱり仕事ができる初めてまちというのは活気づくでしょうし、そういう方が住まないと、やはり人口もやがてだめになっていくのだと思います。口で言うのは簡単ですが、特に仕事というのは、難しい問題かと思えます。やはり企業というのはそれなりに一生懸命頑張っている、うまくいくときはうまくいくし、そうでないときもありますので、市の方々も大変かと思えますが、ぜひ頑張っていたきたいと思います。

それでは次、(3)の報告に移らせていただきたいと思います。

守口市の人口推移等につきまして、事務局のほうから御説明いただきます。よろしく申し上げます。

○事務局　　それでは、(3)の報告、本市の人口推移等についてを御説明いたします。

ただいまから御説明させていただく内容につきましては、平成28年3月に策定いたしました守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略に記載させていただきました人口動態と将来見通しなどについて、直近のデータ等が公表されておりますことから、それらの状況について、お示しをさせていただこうとするものでございます。

それでは資料4に沿って、御説明させていただきます。恐れ入りますが、資料4「守口市における社会動態、自然動態及び合計特殊出生率について」の社会動態のグラフをご覧ください。

社会動態とは、本市への転入者と本市からの転出者を比較したものでございます。本戦略には、平成26年度までのデータを記載をしておりますが、その当時は平成21年度に社会増が9名となって以来、平成26年度まで、5年連続で社会減が続く状況を記載させていただいております。

その後、平成27年度からの推移を見ますと、平成28年度から社会増に転じ、平成30年度においては320人の社会増となっており、他の北河内地域との比較でございますが、平成29年度比較で申し上げますと、社会増となっているのは、本市と交野市となっており、交野市においては、他の北河内地域の自治体と比較して、住宅地開発に余力があることなどから、社会増を達成しているのではないかと考えております。

なお、本市への転入元として多いのは、寝屋川市、東大阪市、大阪市旭区及び枚方市となっており、これまで転出超過であった寝屋川市、枚方市は、平成29年度から転入超過に転じ、社会増を達成したところでございます。これらの状況からは、近隣自治体間での人口争奪戦の状況が垣間見えるのではないかと考えてございます。

なお、転出先として多いのは、大阪市北区、兵庫県西宮市及び豊中市となっております。

次のページにまいりまして、自然動態のグラフをご覧ください。

自然動態とは、本市における出生数と死亡数を比較したものでございます。こちらにつきましても社会動態と同様に、平成26年度以降の状況を示させていただきます。こちらにつきましては、平成26年にマイナス421人となった以降、平成30年度まで漸減傾向が続いております。

続きまして、次のページの合計特殊出生率をご覧ください。市町村別の合計特殊出生率については、5年ごとに算出されるため、現在の確定した最新データである平成20年から平成25年において比較すると、全国が1.3

8であるのに対しまして、本市では、1.26となっております。また、本市の1.26という数値でございますが、北河内地域では、7自治体中で最も低い数値となっており、最も高い寝屋川市の1.44と大きな差が生じたところです。

次に、資料4「守口市における人口推計及び高齢化率の分析について」御説明いたします。

上のグラフについては、過去の国勢調査における人口推移及び年齢構成を示したものです。人口については、緩やかに漸減していることが読み取れるとともに、高齢者の割合が急激に高くなっており、その中でも特に75歳以上の方の割合が急伸しているということがわかります。

下のグラフについては、守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定時と、現時点における人口推移及び高齢化率の比較をさせていただきました。各年において、棒グラフが2本並んでいると思いますが、左側の濃い色の棒グラフが、本戦略策定時の人口推計、右側の薄い色の棒グラフが、国立社会保障・人口問題研究所の直近データをもとに作成させていただきましたものです。本戦略策定と現在の推計を比較すると、人口減少のスピードが速まっているということがわかります。

次に線グラフをご覧ください。線グラフは、65歳以上の高齢化率を表したものです。本戦略策定時と比較して、現在の推計データでは、高齢化率がより急伸をしているということがわかります。

最後に、資料4「守口市における転出入者の分析について」御説明します。ここに示させていただいている平成22年と平成27年の比較による5歳階級別人口増減表は、本戦略に記載されているものを男女別に記載したものでございます。

このグラフでは、若年層の転入超過、ファミリー層の転出超過が著しいということが読み取れます。

次のページにまいります。こちらは直近の状況をお示しするために、参考値として平成25年と平成30年の比較による5歳階級別人口増減表を作成

して、掲載しております。大きな状況の変化はありませんが、平成22年と27年比較の5歳階級別人口増減表と比較をして、ファミリー層の転出に一定の歯止めがかかっている状況がうかがえ、先ほど御説明をさせていただきました社会動態における社会増の1つの要因となっているのではなかろうかと考えてございます。

以上で、本市の人口推移等に関する御報告を終わります。

○委員長　　どうもありがとうございます。

報告ではございますが、何か質問、コメントございませんか。先ほどの御議論いただいた件とも、若干重複する部分もあるかと思いますが。

確かに高層のマンションができたとか、住宅を開発したとか、そういう要因もあるのですが、若い人たちが、やはり子どもを連れて住んでみようかというのが、増える傾向にあるのかなというようには、非常に甘くですが、その辺り、事務局はいかがですか。

○事務局　　御承知のとおりこの近辺ですね。京阪守口市駅、また大阪メトロの守口駅周辺にはマンションが多く建っておりまして、一方で、この校区の小中学校がやはり、子どもの数が非常に増えて、平成18年度にはこの庁舎の隣辺りにあった土居小学校と八島の交差点の守口小学校を統合させていただいたのですが、それ以降、マンションが建ち始めまして、逆に守口小学校が圧迫されるような状況になっておりまして、校区選択制をこの校区に限り導入させていただいたという計画がございます。

また統合による学校の跡地については、公有財産の売却を行い、一部はここ数年間で、分譲の新たなまちづくりもしていただいて、そういったところから、子育て世代、新たに転入してきている背景はあろうかと思えます。

○委員長　　ありがとうございます。

この京阪沿線辺りの動きとして、何かコメントございますか。

○委員　　京阪電車としてはもう、同じ沿線から動くよりはどこか遠いところから引っ越してきていただいたほうが嬉しいのですが。

○委員長　　他にございませんか。それでは、案件（3）の②、令和元年度

の守口市まち・ひと・しごと創生委員会の進め方について事務局からお願いいたします。

○事務局　それでは、案件（３）の②です。令和元年度の守口市まち・ひと・しごと創生委員会の進め方について、御説明をさせていただきます。恐れ入りますが、お手元の資料５「令和元年度の守口市まち・ひと・しごと創生委員会の進め方について」を御参照賜りたいと存じます。

令和元年度の守口市まち・ひと・しごと創生委員会については、本日第１回を開催させていただいております。この後の予定として、令和元年１０月頃に次期総合戦略に係るアンケート調査結果及び関西大学との共同研究の成果について、御報告をさせていただく予定です。

次期総合戦略については、令和２年度中に策定する第６次総合基本計画との整合性を図る観点から、計画期間を１年延伸することとしており、新たに策定する第６次総合基本計画における目標や、主要施策を総合戦略の目標や重点施策とすることを基本とさせていただくことを考えております。

以上のことから、総合戦略の策定に係るアンケートについても、それを前提として質問項目等を精査し、実施させていただくことを考えており、総合戦略の見直しに合わせて、次年度の具体的な取組に関する御意見をお願いできればと存じます。加えて、関西大学との共同研究の成果についても御報告をさせていただく予定です。

第３回は、令和２年３月頃を予定しており、総合戦略の計画期間延伸に伴う計画内容の決定についてを案件とし、第６次総合基本計画案のうち、総合戦略に該当する部分について御確認いただき、御意見をお願いできればと考えております。

以上、甚だ簡単ですが、令和元年度の守口市まち・ひと・しごと創生委員会の進め方についての説明を終わります。

○委員長　ありがとうございます。これも報告でございますが、何か御質問ございますか。よろしいでしょうか。

それでは最後、資料６の件につきまして、事務局から御説明いただきたい

と思います。

○事務局　それでは最後、案件（４）その他といたしまして、関西大学とのシティプロモーション、ブランディングに関する共同研究について御説明いたします。恐れ入りますが、お手元の資料６「学校法人関西大学とのプロモーション、ブランディングに関する共同研究の中間発表会の概要について」を御参照賜りたいと存じます。

本研究は、平成３０年１２月２７日の守口市まち・ひと・しごと創生委員会において、嶺山委員からの持ち込み企画として、守口市との協働事業提案ということで御報告をさせていただきました。それを受け、平成３１年４月１日から令和２年３月３１日を研究期間として、「守口市に住みたい」「守口市で子育てしたい」「守口市に行ってみよう」と思う人が増えるよう、シティプロモーション、ブランディングに関して、本市と関西大学商学部に所属する流通・会計・国際ビジネス・ファイナンス・マネジメント分野の５つのゼミナールが共同研究を行うこととなりました。６月２７日に関西大学で、５つのゼミナールのうち４つのゼミナールで本研究に関する中間発表があったことから、その概要について御報告をいたします。

まず、１つ目のゼミナールは、「守口市創生プロジェクト」と題して、本市のイメージアップを図るため、若者やファミリー層向けのお出かけマップを作成し、SNS、広報誌、ホームページに記載することを研究内容としております。

２つ目のゼミナールは、「安心・快適・便利に子育てできるまち、守口」と題して、現在本市のシンボルキャラクターであるもり吉を活用して、記載のとおり、もり吉体操やもり吉ハンサムコンテストなどのさまざまな事業展開を図ることを研究内容としております。

３つ目のゼミナールは、「情報発信プロモーション」と題し、ホームページ、公式LINE、情報アプリの充実について、効果的な方法などについて考察されており、現在、市で行っている子育て支援をはじめとする各種行政サービスの情報発信に力を入れ、本市の魅力のPRを図ることを研究内容と

しております。

4つ目のゼミナールは、「人口増加による守口市の活性化」と題し、淀川河川敷や大枝公園、鶴見緑地などの自然環境にスポットを当て、子育て世代・親子参加イベントを実施し、本市の魅力を発信することなどを主な研究内容としております。

これら4つのゼミナールでは、本市でのフィールドワークなどを通じて、研究を深めるとともに、それぞれの提案について、さらに具体性をもたせていきたいという旨の報告がなされました。

なお、これらの研究内容については、令和元年8月3日に、関西大学千里山キャンパスで開催されるサマーキャンパスにおいて、成果が発表されることになっており、また改めて御報告をさせていただこうと考えております。

以上で、関西大学とのシティプロモーション、ブランディングに関する共同研究についての御説明を終わります。

○委員長 この件につきましてご意見はいかがでしょうか。

○委員 子育て世代の人口を増やすためには、今の子育て世代も大事ですが、これから子育て世代になっていく私たちのような人、20代などを呼び寄せるための施策が足りなかったもので、そういった人たちに突き刺さるようなSNSなどのプロモーション方法を今自分で模索している最中です。何か、広報などに関わってる方たちもいらっしゃるので、何か意見があれば教えていただきたいです。

○委員 非常にこの分野も、いろんなアプリというか、メディアが出てきて、難しい分野でもあるのですが、ヒットすれば良いものの、たくさんメディアなどが情報発信されている自治体もございますので、その中でどう面白く仕上げていくか。目立つ内容にできるかどうかというのが、やはりポイントなのかなと思いますし。やりましたというだけではなくて、やはりそれを広げていく。一人でも広げていく努力というのも、大事かと思います。難しい分野ですが、頑張っただけだと思います。私たちにできることがあれば、協力させていただきます。

○委員 学生さんが一生懸命、もしかしたら守口に縁もゆかりもない人が、現場に入ってやっておられると思いますが、私も実はうちの連携先の過疎地域で似たようなプロジェクトをやりましたが、結局それをやって、行政がそれをどう生かすのかや、あるいはどれだけ地域の人を巻き込んで、協力してくれるのかと。大学生がすれば、「頑張って」と言ってはくれますが、結局それで終わりになってしまって、私は、自分の心が折れたんです。なので、守口市は、せっかく大学生がこうやって汗を流してやってくれるのだから、その分それをいかに次につなげていくかということ、ぜひ考えてあげてほしいなと思いますし、やはり製造業や商業などいろいろな事業者さんや住民の方もいらっしゃる。なるべくみんなで参画して、協働するというのが良いのではないかと思うので、大学生はほかにもいっぱい遊びに行きたいと思っているのに、こうやって暑いところ頑張ってくれているわけですから、ぜひそれを次につなげてほしいなと思います。守口市はシティプロモーションに対する基本的な考え方や戦略などはおありですか。

○事務局 書いたものはないです。

○委員 だからそれをやっぱりつくっていなければいけないと思います。もう今、どこの自治体もシティプロモーションに躍起になっておられるので、こういうところから提案が出てきたものをベースに、そういった戦略をきっちり作り上げていくということを考えられたほうが良いのではないかと思います。

○委員長 せっかくホームページや、いろいろなLINEやアプリが充実しているので、先ほど委員がおっしゃったように、ここがほかと比べて守口はピカ一だとか、そのようなことを学生さんに逆に教えてあげて、これを強調してほしいとか、そういうことを市のほうからも情報提供することも必要かと思います。

○委員 次回、他の人気マスコットキャラクターが、どのようにして人気になったのかとか、地域の方の協力があつたなら、どのようなサポートをして認知度が広がったのかとか、それから、子育てに例えばどのような影響が



あるのかとか、子育て世代の転入などにまで効果があるのかといった、その辺りを勉強したいなとかと思っているので、もし何かそういう資料などがあれば、教えてもらえればいいなと思っています。

○委員長　　よろしくをお願いします。

それでは、本日の案件は全て終了しました。　本日の議事録の署名人につきましては、大森委員と川上委員にお願いをしたいと思います。

本日はお忙しい中、御出席賜りまして、まことにありがとうございました。これで令和元年度の第1回の守口市まち・ひと・しごと創生委員会を閉会とさせていただきます。

○事務局　　どうもありがとうございました。

◇　午前11時38分　閉会

~~~~~